



令和6年6月1日

補習校だより

No.3 文責 齋藤 寛

信濃川に橋を架ける

～田中角栄の演説集より～

◇東日本大震災の直後の頃、もし日本の総理大臣が田中角栄だったらどんな復興を描くだろうかと思いついて、田中角栄関係の本を読みました。

田中角栄の功罪は様々あると思いますし、自分はそのほんの一端しか知りませんが、その魅力は何といってもその卓越した演説です。今なおユーチューブでも見ることができます。今日はその中でも有名な演説を紹介いたします。

◇「政治家は仕事をすると批判される」というのは本当です。

信濃川に橋を架ける場合でも、「今度橋を架けるよ。」と言っているうちは、皆さんから「よろしくおねがいします」などと、ありがたがられるものです。

ところが、いざ橋が架かってみると、上流の人はもっと上流に架けてほしかったと言うし、下流の人は下流の人でもっと近くに架けてほしかったと言うものです。すべての人に同じように満足してもらうことはできませんし、人はなかなか満足しないものです。

もし、どこかから田中の悪口が聞こえてきたら、「田中は仕事をやっているんだな。」と思ってください。

◇どうですか、さすが人間を研究している田中角栄だけのことはありますよね。

自分だったら、どのみち批判されるのなら、橋はやっぱりかけた方がよいと思っています。

